

# ザンビアに暮らしてみても

JICA シニア海外ボランティア  
ザンビア開発庁ビジネスアドバイザー  
澤村 康史

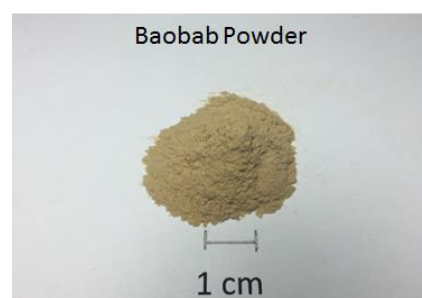
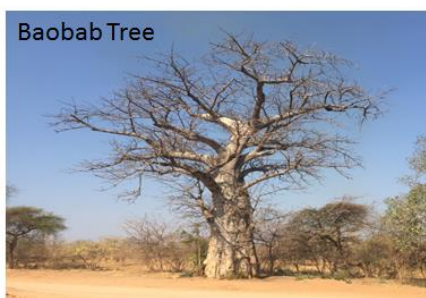
## 「ザンビア起業家の情熱と支援活動（２）」

### ～ザンビア産の自然食品～

前回ご紹介させていただきましたようにザンビアは自然豊かな国です。ザンベジ川やカフエ川などの豊かな水源に育まれ、森林やサバンナには数多くの動物たちや植物が手つかずのまま保護されています。私が支援する起業家にも自然食品や健康食品を製造販売している企業があります。

#### 1. ザンビア産の自然食品： バオバブと蜂蜜

ザンビア南部のサバンナ地域にはバオバブ（Baobab）が群生する地域があり、数百年成長を続ける幹を介し鮮やかな白い花を咲かせた後に、フルーツの味覚を我々に提供してくれます。バオバブはマダガスカル産が有名ですが、ザンビアでも高さ30m、直径が10m近くある大木もめずらしくなく有機バオバブとして実をフルーツやパウダーとしてザンビアの自然食品専門店を経営する起業家が市販しています。植物が育ちにくい乾燥したサバンナなどで生息するため、バオバブは神宿る木として信仰されている地域もあります。ビタミンC、カルシウム、ミネラルなどが豊富で、食べると酸味があってソフトなレモン味がします。私は、スプーン一杯のパウダーをミルクやジュースに入れて飲んでいきます。



ザンビアの森やサバンナには、化学肥料などと無縁な地域が存在しています。大手のザンビア養蜂企業の中には、森の奥地に住む村民数千人と契約をして彼らの純粋な有機蜂蜜を購入することで、村民の貴重な現金収入源を支援している企業があります。ザンビアでは、この有機蜂蜜が日常的に愛飲されており、私も紅茶やヨーグルト、パンなど砂糖代わりに毎日食しています。日本で愛用されているアカシア花の蜂蜜と比較すると、ザンビア産は百花蜂蜜が主で色が濃厚で、味に深みがあり、一度飲むと癖になる甘さです。主なスーパーマーケット、地方の小売店や街道沿いでも販売されており、薬代わりに飲んでいるという人たちもいます。

#### 2. 起業家の事業展開

養蜂企業の一部はヨーロッパ、米国、カナダなどへ積極的に輸出しており、輸出された蜂蜜は、欧米のメーカーを通して更に世界各地に輸出されています。また、日本の養蜂関連企業にザ

ンビア産蜂蜜の品質確認をしていただいたところ、純粋な有機蜂蜜であるとの結果をいただきました。さらに、起業家が蜂蜜で村おこしを推進したり、有機プロポリス、ハニービネガーなどの高付加価値商品の開発も積極的に推進しています。

日本での蜂蜜の原産はアジア、南米などが有名ですが、重工業などの産業進出や農家の化学肥料の多使用などにより、有機食品が減少してきていると聞きます。健康ブームで、需要は伸びつつあるようですので、近い将来ザンビア産有機食品が日本企業との提携などにより、食卓にもっと並ぶ日も近いかもしれません。



村人たちによる古典的な養蜂 Forest Fruits社提供

また、起業家育成支援については、英国系のNGOなどが推進するコンテストなどが昨年から開催されていますが、今年の1位は、マッシュルーム栽培の女性起業家でした。私はアドバイザーとして起業家へのビジネス戦略やビジネスプランの作成支援、コンテストの審判員の一人として参加しました。約650社の起業家が応募し、約6か月の審査を終え、その中の上位20社には最高250万円、最低でも75万円がスタートアップ賞金として支給されました。私が支援した2社も勝ち残り、引き続き事業化に向けての実行計画、ビジネスモデルの構築、資金運用計画などの支援を継続しています。彼らのビジネスへの情熱、責任感、リーダーシップは先進国の起業家とほぼ同じで、成功を信じて新しいアイデアや地域社会への貢献、お客様満足度の向上を目指して努力を重ねています。

### 3. ザンビアのビジネス環境

ザンビアは、近年外国資本を中心に開発が進行しており、首都ルサカでは西欧風のショッピングセンターやアジアの食材を販売する店舗が増加しています。日本の約2倍のフラットな土地を有し、共通語が英語で政治的にも比較的安定し、アフリカの中央部に位置しているため、周辺諸国を合わせると約4億人の商圏を抱えています。昨年からの銅価格下落による通貨下落や電力供給不足などによる成長率鈍化によるビジネスリスクはありますが、長期的な視点では成長著しい戦略地域であることは間違いのないように思えます。

前述の積極的な起業家支援策による新規事業や日本の“KAIZEN”活動による品質向上、生産コスト低減を積極的に推進する企業も増加しており、今後アフリカ進出をご検討されている日本企業にとっては、輸出入ビジネスのスタートアップをしやすい国になりつつあるのではないかと考えています。

